

芦生演習林 観察と採集会

(51年度夏期研修会記録)

岩 谷 成 彦

芦生演習林について

京都大学農学部芦生演習林は、京都府北桑田郡美山町芦生にある。

この演習林は、北は三国峠(776m)、野田畑峠、杉尾峠(756m)、権蔵峠(638m)とつづく尾根により福井県に、東は三国峠、地蔵峠、三国岳(959m)とつらなる尾根により滋賀県に、南は三国岳、天狗岳(921m)、小野割村岳(932m)、佐々里峠(832m)とつづく尾根により京都市左京区に接し、ほぼ長方形、4,200㎡の面積をもっている。

杉尾峠に源をもつ由良川は、演習林内を「>」の形に東流西進して出、やがて、北上して日本海(舞鶴湾)にそそいでいる。

ここはまた、昭和36年、毎日新聞社が選んだ日本の秘境30カ所に入っており、近畿地方に残された数少ない秘境として知られている。交通不便な奥地であったこと、昔から宮山として保存されてきたうえに、大正10年、京都大学農学部の演習林となって大切に保存されたことによって、植物相が豊富であり¹⁾、その中に分布上貴重なものを、いくつか含んでいる。

そのため、中井猛之進博士は、「植物学を学ぶ者は芦生演習林を見るべし」と紹介しておられ²⁾、一度は行ってみたいと思っていたところ、昭和51年8月18日~20日の3日間、生物学会の夏期研修会が開催され、参加する事が出来た。

演習林への道

芦生演習林への、もっともふつうのコースとしては、山陰本線、和知駅で下車し、静原をとおり、又は京都から国道162号線で周山をへて、美山町安掛から、田歌をとおり入る道である。

その他、①京都花背、②滋賀県朽木村、③福井県名田庄村から入るハイキングコースもある。

演習林の入口にある芦生には、京都府青少年山の家があり、宿泊出来る。

8月18日。

(第一日 由良川本流沿いコース)

総勢27名は、いろいろな方法により、山の家集った。

1時30分。渋野先生の開講の挨拶。布谷、加茂、中堀各講師の紹介があり、出発。

川をわたると道は2つに分れる。本日は右、由良川本流沿いコースをとる。

すぐに演習林の事務所があり、モリンダトウヒ、ドイツトウヒ、カナクキノキ、ウリハダカエダ、ウワミズザクラ、コナラ、クマノミズキ、オニグルミ、キハダなどの大木に囲まれている。

事務所の前には、職員官舎、作業場がある。

由良川軌道橋を渡り、由良川の左岸に出る。

森林軌道に沿って歩く。両側はスギの植林である。

灰野廃村をすぎると。植林のスギの他、コナラ、シデの類、カエダ類、ネムノキ、ヌルデ、クサギ、クリ、エゴノキ、ヒノキなどがあり、メタセコイヤも植えてある。

森林軌道は、昭和3年に開通したとのことであるが、由良川沿いの岩を削った絶壁を走っている。この切りたった岩には、イヌシダ、オサシダ、イワウチワ、イワナシ等が沢山着いている。

よくのびたカラマツ並木を過ぎると、山側は急に開けてケヤキの苗を植えたところになる。コヨモギの苗畑である。ここで小休止をする。誰かがナツエビネを見つけてきた。

軌道はなおのび、由良川のすぐ横を走っているが、下は絶壁となっている。トチノキにオシャクジエンダが着いている。カツラ、サワグルミ、フサザクラ、オオバアサガラ、ケンボナン、オニグルミ、ハイイヌガヤ、チャボガヤ、タニウツギ、ヒメアオキ、ホンシャクナゲなどが軌道に沿って見られる。

影迫に4時過ぎに着いたが、ここから引き返すこととする。

軌道は、まだ、刑部谷、カズラ谷をへて、七瀬まで伸びているが、レールは途中からなくなる。歩道としては歩きやすいが、橋は腐って危いとか。

七瀬から、更に上流、中山までは主として由良川右岸に沿う。芦生溪谷と呼ばれる素晴らしい溪谷美のところに行くが、「カニの横ばい」などの危険なところも多い。急斜面のところ、ゴヨウマツ、ホンシャクナゲ、湿潤な岩面には、リュウキンカ、チョウジギク、河岸ではこの地方特産のアシウテンナンショウが見られるという。

夕食後、後記のように各講師から講演があった。

8月19日。

(第2日 櫃倉谷-杉尾峠-上谷-
下谷-ケヤキ坂-内杉谷コース)

落合橋。9時前に山の家を出る。橋を渡り、左へゲートをくぐってスギの植林の中、林道を約2km進み、9時

半頃着く。

ここは、右、内杉谷、左、櫃倉谷との合流点である。

横山峠には、左、ヒツクラ谷へ入る。約2km。林道の終点到10時頃着く。ここから、川をわたり、オオイワガミ、イワウチワの多い坂をのぼるとつく。横山峠は、演習林の境で、登り口は伐栽されているが、下りは景観が一変して静かな原生林となる。トチノオと立札あり。

ヒツクラ谷。トチノオから、杉尾峠のとつきまで約3kmの谷。川を右岸へ、左岸へと何度も渡りながら林の中を歩く。

トチノオに流れ込んでいるのが、ナカノツボ。

この奥には、ニッコウキスゲがあるとのことである。分布の西限である。

トチノキ、サワグルミ、ミズキ、カツラ、カエデ類、シデの類、スギ、クロモジ、コバマユミ³⁾、ウワミズクラ、チャボガヤ、ハイイヌガヤ、モミジバチャルメルソウ、ヒカゲミツバ、マルバフユイチゴ、リョウメンシダ、ミヤマベニシダ、ヤマソテツなど。ナツエビネの丁度花盛りで、皆充分に楽しむことができた。トチの実を拾っている人もあった。途中、1カ所クマのおりが置いてあった。

12時半、昼食をとってから、ここで、杉尾峠をへて上谷に行く班と、来た道を引きかえす班とに分れる。

杉尾峠への上りは、けわしい上りだ。シノブカグマ、アセビ、クロソヨゴ、ナツツバキなど。1時半に着く。ここをおりると、福井県小浜へ出られるという。

上谷におりる。野田畑湿原まで約3km。はじめはブナ、チシマザサの中を行くが、やがて、由良川の最上流の流れがあらわれ、大きくなり、それを右岸へ、左岸へと渡ってゆく。この谷は、よくクマが出るとのことである。ミズナラ、リョウブ、カエデ、シデの類など。

野田畑湿原に2時半頃着く。芦生で一番広い湿原とのことであるが、ススキが一杯生えている。

長治谷小屋。湿原の丸木版の道から、スギの植林の中を進むと車道の終点に出て、3時頃着く。広い芝生を前庭にもち、そこに、コバマユミが庭木のように植えてある。その前には長治谷湿原がひろがっている。前面の斜面は見事なスギ林となっているが、巻枯し法⁴⁾によって造成されたとのことである。

小屋から林道を約1km行くと中山。ここから、地蔵峠をへても滋賀県へ出る道がある。また由良川本流沿いのコースにも出られる。

下谷、中山からケヤキ坂まで約3km。ゆるやかな上りの林道である。左側、川原には、保存木カツラの大木、スギの大木を中心とした宮の森保存林、トチノキ平、シクナゲの多い岩場が見られる。えらい道だった。

ケヤキ坂 (780m) に4時半頃つく。

ケヤキ坂をこえると内杉谷。この谷は深い谷で、林道が山の中腹をまきながらうねと下っている。殆んどスギの造林地で、原生林の面影は尾根や、谷間に残っているだけである。処々、水飲み場があり、それぞれ、のどをうるおしていた。

5時半頃、大分下った処で、演習林のジープ、渋野、近藤先生運転の車が迎えに来て下さったので全員分乗。幽仙橋、メタセコイヤの並木、落合橋をとおり、山の家につく。6時前だった。

8月20日。

8時、閉講式。道路工事のため通行止になるとの事で早々に出発。

途中、北山杉資料館を自由見学せよとの事であったが、資料館に気が付かずにとおり過ぎてしまい、見学する機会を失ったことは残念だった。

今回の研修会では室井会長が欠席され、指導を受けられなかったのは残念であったが、盆の間、ずっと雨が降っていたのに、研修期間中は夕立もなく、演習林の主な所を一応見学、観察することが出来た。

この紅葉は10月中、下旬の1週間が見頃であるという。また、訪れたいものである。

御案内、御指導を賜った各講師の方々、及び、お世話して下さい各先生方に厚く御礼を申し上げます。

また、一緒に研修された皆さん。楽しい3日間でした。有難うございました。また会いましょう。

参加者

今回の研修会は定員37名のところ、40名の申し込みがあったとのことである。

当日の参加者は、次の24名の方々であった。

甘中照雄 三木正士 東 英三 杉田隆三 橋本光政
赤穂重雄 高橋一老 上田元章 福田昭子 小池孝良
前田常雄 河浪 繁 森脇千代蔵 大西 洋樹 市毛
康之 岩谷成彦 岡村はた 近藤浩文 平畑政幸 渋
野竜二 武田純一 新条計吾 早川守哉 上岡

(申込順・敬称略)

講演要旨

18日、夜の講演の概要は次のとおりであった。

1 伏条スギについて

京都大学大学院 加茂皓一氏

スギは、青森から屋久島まで、常緑広葉樹林帯から落葉広葉樹木帯の上部まで分布しているが、地域的な変化がある。芦生演習林において、観察される伏条型のアシウスギの形態、生態について。

2 芦生の植生について

大阪市立自然史博物館 布谷知夫氏

(1) 芦生演習林では、①ブナーチシマササ群集 (a. ホンシャクナゲ亜群集, b. アセビ亜群集) ②ブナークロモジ群集, ③トチノキージュウモンジシダ群集, ④ツガークロンヨゴ群集, ⑤ウラジログアシーヒメアオキ群集, ⑥2次林, ⑦植林の植生群落が見られる。

(2) 植生に対する考え方には、大きく分けて2つある。その考え方にもとづいた芦生での調査例の紹介。

3 比良山小女郎池付近の植生変化

京都大学大学院 中堀謙二氏

比良, 小女郎池付近は、現在ササ原であるが、花粉分析の結果、かつてブナ林が存在したことがわかった。

ブナ林以前はササ原であった可能性がある。

ササ原からブナ林への移行は、縄文海進期がすんで、寒冷化が進んだことが影響しているものと考えられる。

ブナ林の消滅は人為によるものかもしれない。

植生変化をもたらした気候変動、寒冷化の傾向は、日本でも広くおきた現象であつたらしく、芦生の植生にも何等かの影響が考えられるのではないか。現在のスギ林にもその影響があるかもしれない。

文 献

芦生演習林について、若干の本が出ているが、植物については、次のものがある。

渡辺弘之：京都の秘境・芦生 ナカニシヤ書店(1973)

竹内 敬：京都府草木誌 大本 (1962)

京都府：京都府の自然と名勝 京都府 (1951)

岡本省吾：芦生演習林樹木誌

京都帝大演習林報告第13号 (1941)

註1)

渡辺著「京都の秘境・芦生」によれば、芦生演習林内には882種の植物がある。

シダ植物87種、裸子植物 13種
被子植物のうち単子葉植物177種 双子葉植物605種。

註2)

中井猛之進・植物ヲ学ブモノハ一度ハ京大ノ芦生演習林ヲ見ルベシ 植物研究雑誌 XVII 273 (1941)

註3)

別名・コバノコマユミ(中井)。ヒメコマユミ(並河) 中井猛之進博士が、朝鮮ウツリョウ島で発見され、本州では当演習林のみに産すると発表されていたが、北村四郎博士等は、富山県以西に分布すると記載されている。

県内にも、但馬生野町法道谷に産すると、細見末雄氏が発表されている。

註4)

芦生で、スギの混った天然林をスギのみの林とすると、スギ以外の樹木を伐栽すると周囲のスギや環境を損うので、他の樹木はその形成層を剥いて除々に枯らしてゆく方法がとられている。これは、林業の方では巻枯し法と呼び、天然林に対してよく行なわれている方法である。

次 期 総 会 (31回) の ご 案 内

と き 昭和52年5月21日(土)、22日(日)

と ころ 西播支部(姫路)

(注) 案内状は4月中旬に発送の予定ですが、研究発表ご希望のかたはあらかじめご準備おきください。